

段落の構成「はじめ・なか・おわり」と、その役割を理解して文章を書く子どもの育成 ～子どもの「書きたい！」を引き出す課題づくりを通して～

新潟市立内野小学校 教諭 山田 綾子

1. はじめに

24年度、自校で行った学習指導改善調査の結果を分析したところ、「段落構成」の項目の正答率が低かった。三部構成で文章を書くことに慣れていない実態が見える。段落を区切って書くことで、内容が整理され、書き手の主張が伝わりやすいことを子どもに知らせるには、段落構成を可視化して示すことが必要だと考えた。

本単元は、三部構成の文章の書き方に慣れていない4年生の子どもに、「はじめ・なか・おわり」を意識した三部構成の文章を書かせたいと願って構想した。教師自作の「ゲームなんてやめなさい！」を示すことで、子どもの「書きたい！」気持ちを引き出し、さらに三部構成の「書かれ方」に目を向けさせるよう仕組んだ実践である。

2. 本実践のキーワード

- ①子どもの「書きたい！」を引き出す課題づくり
- ②「はじめ・なか・おわり」の型（モデル）の提示
- ③習得した型（モデル）を活用して書く

《子どもの実態》

メモや資料をもとに、三部構成を意識して文章を書くことができない。

三部構成のモデル文「ゲームなんてやめなさい」を提示し、先生の考えに反論するために書くという相手意識・目的意識を高める。

モデル文に沿って反論の意見文①を書くことで、三部構成の書き方を理解する。

総合学習と関連させ、「世界の恵まれない子どもたち」について調べたメモをもとに、習得した三部構成の型を活用して意見文②を書き、習熟する。

《めざす子どもの姿》

自分で集めた資料の中から目的に応じてメモを取捨選択し、三部構成を意識して文章が書けるようになる。

3. つけたい力

- ★三部構成の形式のよさに気付き、「はじめ・なか・おわり」を使って、意見文を書く力
- ★自分で集めた資料の中から、自分の伝えたいことに合う事実を選んで書く力

自作のモデル文の「なか」の部分には、①（ゲームの）値段が高い②視力が低下する③（ゲームをする）時間をもたないという3つの理由が述べてある。子どもは、それぞれの理由について勢いよく反論する言葉を述べ続けた。

- ・値段が高いという理由に反論します。どんなに値段が高くて、お金の替えられない楽しさがゲームにはあると思います。
- ・先生は視力が低下すると（モデル文に）書いているけど、時間ごとに休憩して目を休めているから視力は悪くならないと思います。

また、教師がモデル文で述べた①値段②視力低下③時間の3つの観点とは別に他の理由を挙げて反論する子どももいた。○友達ができる ○登場人物を育てるゲームでは、親の苦勞がわかる ○学習ソフトを使うと頭がよくなる ○ストレス解消になる ○お父さんと話が合うようになる

（2）モデル文の書かれ方に着目させ、はじめ・なか・おわりの構成に気付かせる。

モデル文の内容を3つに分けなさい。

と発問し、モデル文に線を引かせた。はじめ・なか・おわりの構成になっていることに気付いた子どもに空欄の構成メモ枠を提示し、どのようなキーワードで事実の部分が書かれているかに着目させる。



（3）モデル文に反論する形式で構成メモを書き、意見文を書く。

ゲームなんてなくなればいいと思っている先生を説得する文章を書いてみなさい。

と投げかけ、構想メモを考えさせた。「なか」の部分の3つの理由は、モデル文の3つの理由に反論する形でもよいし、自分で考えた理由から選んでもよいこととした。

《モデル文に反論する「意見文①」》



このように私は、勉強にやたらつ物、空く
 買えたりするとゲームはオトクだ。なので、
 緩き先生に言いたい。
 「ゲームは大切な物だ」

そのカセットをつかえば、勉強しながらでき
 る。私のオススメは、「脳トレ」だ。そのカ
 セットで脳をきたえられるからだ。ゲームの
 後にやったり脳トレをやったりなどいろいろ
 な使い方でできる。ゲームでやると楽しくな
 る。中には勉強でやくに立つこともあると私
 は思う。

《活用》

「構成メモ」を生かした意見文の書き方を活用し意見文を書く。

(4) 恵まれない世界の子どもたちについて調べ学習をし、習得した型を使って意見文を書く。

二分の一成人式を迎えた4年生は、総合学習で二分の一成人式を行う。そのタイミングを生かし、世界中の10歳の子どもの生活について調べ学習を行った。先進国の幸せな10歳の子どものと、後進国の困窮した子どもたち(少年兵・地雷の脅威・児童労働・ストリートチルドレン等)との暮らしぶりの違いに気づかせ、後進国の子どもたちの生活について本・インターネット・家の人へのインタビューなど、調べ学習を行った。必要なことはメモさせ、なるべくたくさん情報を集めさせた。その後、意見文を書くために情報を取捨選択し、主張と理由を構成メモにまとめさせ、意見文を書かせた。

《子どもの構成メモ》

The image shows two handwritten composition notes on grid paper. The left note is titled 'なかに' and discusses '地雷で、体' (mines and bodies) and '少年兵' (child soldiers). The right note is titled 'なかに' and discusses '少年兵' (child soldiers) and '地雷' (mines). Both notes include handwritten text and some diagrams or flowcharts.

まず、「なか」で述べたいことの要点(キーワード)を付箋に書き、構成メモの中央に張らせる。本やインターネットから調べた大量のメモの中から、付箋に書いた要点を説明するために必要な情報を選び、「なか」の部分にまとめさせた。子どもは、この構成メモをもとに、習得した型を使って意見文を書いた。

《習得した三部構成の型を活用して書いた「意見文②」》

地雷で、足をなくしてしま。た。地雷なんかなければ、ケオくんは右足は、まだ今もある。ここもかわいそう。日本では、もし地雷があ。たら、けいさつにか。と。でもらうけど。カンホジアは、そ。ちいうものは、ないと思う。もし、私がケオ。さん。たら、なんで地雷があるんたらう。せんそうがおわ。たら、ち。んと。ておけ。ばいいの。と思う。地雷なんかうりなれば。いいんだ。一つ三百円で、地雷した。い。き。す。べ。て。

世界中の人になにができることはない。私は、世界の子どものことを、国語のじ。ぎ。ま。う。で。学。ん。だ。私は、カンホジアのケオくんのことを知。た。ケオくんは、地雷をふんで足をなくしてしま。た。と。でもかわいそう。だ。と思う。理由は二つある。一つめは、世界中の地雷をすべ。て。なく。す。こ。と。だ。ケオくんは、子どもたちであそんでいたら、

か、すうがし。しがね。いた。しい。このように、苦しい生活をしながらケオ君ほかの、世界中の人たちをすく。て。い。き。たい。し、山田先生みたいになら。る。は。き。ん。を。し。た。い。で。す。

なくしたい。でも、さわ。たり。する。と。ば。く。は。つ。する。の。ら。で。き。な。い。ん。だ。と。思。う。と。う。し。た。ら。な。く。なる。ん。たら。う。地雷は、「悪まの兵器」とりあ。れ。て。い。る。二つ目は、学校に。い。け。な。い。こ。と。だ。右足がないケオくんには、ま。け。な。い。ん。だ。な。に。か。の。り。も。の。と。か。に、の。ら。な。い。と。い。け。な。い。ん。だ。か。わ。い。さ。う。私。は、ま。だ。右。左。足。が。あ。る。で。き。ず、じ。も。よ。め。ず。カンホジアには、学。校。

5. 成果と課題

1. 成果

【子どもが書きたくなる課題】

文章を書くことが好きという小学生は少ない。したがって、作文を書きたくなる課題づくりが必要だ。子どもはズレを感じた時、自ら考えたり、書いたり、話したりしたくなると考えている。

- ① 友達の考えとズレる。
- ② 既習事項や生活経験とズレる。
- ③ 友達の考えとズレる。

本単元は、②の生活経験とズレを生む課題を提示して子どもの書きたいという気持ちを掘り起こした。教師の考えに反論したくなる課題を提示することが、子どもの書く必然を生んだのだと思われる。

【三部構成の仕組みを構成メモによって可視化したことについて】

説明文・意見文の構成に気づかせる学習は子どもにとって難しい。長い文章のどこで意味段落が変わるのか、分かりづらいからだ。しかし、構成メモで可視化し、書かれ方に目を向けさせることで文書全体が三部構成になっている仕組みについて理解させることができた。構成メモには付箋を用い、「なか」がさらにいくつかの事例で分けられていることにも気づかせることができた。

【型を示すことの重要性】

教師は、本単元で子どもに付けたい力のゴールのイメージをもって授業に臨む。しかし子どもはゴールのイメージなど持っていない。何のために学習しているのか明確ではない。

本単元の途中、モデル文には型（はじめ・なか・おわり）があることを見つけさせた時点で、子どもに「はじめ・なか・おわり」が明確な意見文を書こうと投げかけた。つまり、教師と子どもが、同じゴールイメージをもって「できるようになった姿」を共有して授業に臨む。できるようになった姿を子どもが明確にもつことで、教師の意図やアドバイスが子どもに分かりやすく、伝わりやすくなる。型を示すことのよさは、ここにある。「はじめ・なか・おわり」を使って書くことのよさや、書きやすさを実感した子どもは、次に文章を書く時、再びこの型を使って書こうとする。単元終了後、1年間の思い出を綴った文章を書く際、「はじめ・なか・おわりを使って書こう」と投げかけた。子どもは自分の考えを表現する手段として三部構成を使った作文を書くことができた。

2. 課題

【型の習熟について】

この単元を終えてから、三部構成の型を使った作文や意見文を書くよう、二回、課題を出した。その結果、クラスのおよそ85%の子どもが三部構成の意見文を書くことができるようになった。しかし、「おわり」の始まりを表す接続語がなかったり、改行一字下げができなかったりする子どもが、まだ数名が存在する。三部構成の型を使うことを国語授業だけでなく他教科での授業や家庭学習などで使わせることによって、本単元で付いた力を「生きて働く力」として使えるよう一層の活用を図っていくことが必要である。